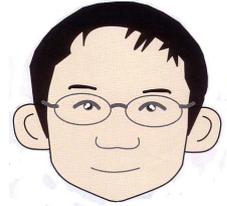




子供たちの成長を感じる2月

校長 平 千力



最近、子供たちの登校時刻がだんだん早くなってきました。私が正門前を掃除しようとする時、「校長先生。僕も掃除していいですか?」「私もほうきをもってきていいですか?」と、私と一緒に掃除をしてくれる子供たち。

「校長先生、いつも正門に立って おはようございます」と言ってくれてありがとうございます」とメッセージを折り紙の花束つきで渡してくれた子供たち。ありがとうございます。

2月は私の誕生日。たくさんの子供たちから「お誕生日おめでとうございます」のお手紙やメッセージをもらいました。なんて素敵なお子さんたち。校長として子供たちに誕生日を祝ってもらえる幸せ。教師冥利につきます。

「自律」、「共感」を学校経営の柱に掲げています。自分から進んで重富小学校をきれいにしようと考えてくれる子供たち。まさに「自律」です。自分の言葉で私を気遣ってくれる子供たち。まさに「共感」です。子供たちの心、確実に育っています。



心を清めてくれる子供たち

6年生の子供たちが玄関前の土のところが毎日掃除をしてくれています。以前から落ち葉やごみをきれいに掃いてくれていました。玄関前がきれいになるのでとても気持ちがいいです。心からありがとうございます。最近、その掃除が変わってきました。

ほうきの目がきれいに整然とつくようになりました。もちろん担任の先生の指導もあったと思います。雨の日以外、毎日、ほうきの目の着いた玄関。心が清められるようです。

卒業を前にした子供たちの成長がとても嬉しく思えます。



新しい看板もできました。

裏山を何とかし隊にかける6年生の思い

2月17日。「裏山を何とかし隊」の成果発表プレゼン大会がありました。6年生それぞれが、「裏山」を下級生、保護者、地域の方々の憩いの場になるように、自分たちでどうしたらいいかを考え、考えたことを実行し、その成果を発表する会です。ジオラマのペンキを塗り替える、ベンチをつくる、鳥小屋をつくる、ランニングコースをつくる、凸凹をなくす、その他にもいろいろなことに取り組みました。看板をきれいにしたいチームは、看板づくりの専門家、重富校区コミュニティーの野口会長に子供たちが自分たちで直接アポをとり、相談にのってもらいました。野口会長は知り合いの市内の看板が作れる葬儀社に連絡をとり、葬儀社の社長が立派な看板を4枚寄贈してくださいました。「え～すごい」「すごいことになった」。子供たちは感動の言葉。これはこの活動のほんの一例です。

この、「総合的な学習の時間」の「裏山を何とかし隊」の学習で、子供たちは、自分たちでどうしたらよいか考える〔問題発見能力〕、考えたことをどうすれば実現できるか計画を考える〔問題活用能力〕、実際にやってみる〔問題解決能力〕、その結果を発表する〔思考力・表現力・判断力〕が身につきました。また、自分たちで何とかしたいと思い実行する〔学びに向かう力〕も身につきました。さらに、何よりも「学校の裏山を愛する心」が深まりました。大人になったとき、「6年生の時こんなことやったよな～」と思い出せればうれしいです。それが、重富を、始良市を愛する心につながると思っています。子供たちは大きく成長をしています。

この活動ができたのは、校区コミュニティー、PTA、始良市の協力してくださった事業所、指導助言をいただいた、なぎさミュージアムの皆様等々、たくさんの方々の御協力のおかげです。心から感謝申し上げます。